■テンドラゴン■

【内容】

予言のカードを４枚出します。客が任意に決めた数にしたがってカードを配っていくと、予言のカードと同色、同数のカードが現れます。

【準備】

いりません。

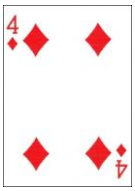
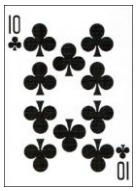
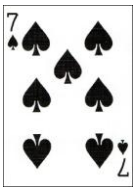
【演技】

ケースからデックを取り出し、よくシャフルします。

「予言のカードを４枚出します」

と言って、ネクタイポジションに持ち、トップ４枚と同色、同数のカードをアウトジョグします。ただし、トップ４枚の中にメイトのカードがある場合は、適当にカットします。４枚を抜き出してテーブルに裏向きにおき、残りのデックの下半分を右手で持ってアンダーハンドシャフルで１４枚をトップにランします。そこからカットしてテーブルにおきます。仮にトップ４枚を、4D,QC,10C,7S とします。予言のカードは 4H,QS,10S,7C です。

トップから

14 枚	15 枚目	16	17	18	残り
X カード					・・・

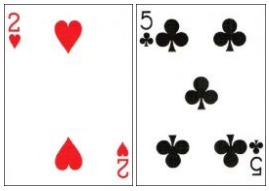
「数字を１つ決めていただきたいのですが、大きすぎたり小さすぎると、あとの作業が面倒なので、そうですね、２０台の数を１つ決めてもらえますか」と言います。

２５と言ったとします。

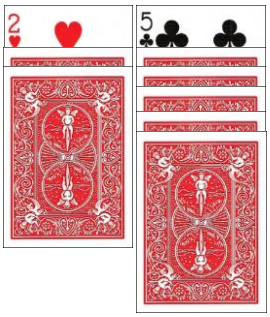
「では、テーブルに２５枚配ってください」と言います。配り終わったら残ったカードを受け取り、相手にパケットを持ってもらいます。

「決めた数字を忘れないように、２と５のカードを出しておきましょう」と言ってデックから探します。見つかったら、相手側から見て「２５」に見えるようにテーブルにおきます。残りのデックはもう使わないのでテーブルの端においておきます。

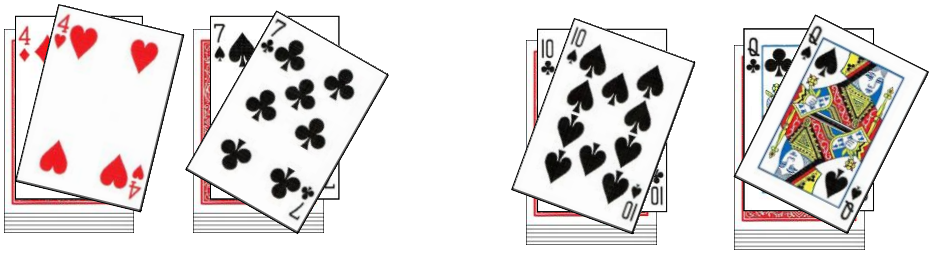
（カードがかたよっていて２や５がみつからない場合もあります。その場合は紙に書いてもかまいません）



「決めた数字を印象付けるためにそれぞれのカードの上にその枚数分配ってください」と言って、「２」と「５」の上にそれぞれ２枚、５枚を裏向きに配ってもらいます。（２と５のカードの表が見えるように少しずらして配ってもらいます）



この時点で持っているパケットのトップは最初のトップカードです。
「では、私に半分ほどください」
と言って、パケットの上から半分ほどをもらいます。「お互いに２つの山に分けましょう」と言って、テーブルに１枚ずつ２列に配っていきます。
相手の２つのパケットを示し、「好きな方を私の山のどちらかの上においてください」相手がそうしたら「この山を持ってください」と言って相手に渡します。
「残りもこちらに重ねてください」と言ってテーブルに残った相手のパケットを演者のパケットの上にのせてもらいます。
「もう一度２つずつ山を作りましょう」と言って先ほどのようにそれぞれのパケットをテーブルに交互に配って２つずつの山を作ります。
「この４つの山は最初にあなたが決めた 25 という数字で作られた山です。もし違う数字を選んでいたら、違う構成の山になっていましたね。それぞれの一番上を見てみましょう」
各山のトップカードを表向きにします。最初のトップカード４枚です。
予言の４枚を１枚ずつ表向きにしていき、メイトのカードの上に載せていって終わります。



【考察】
昔からある数理的原理を基にしています。２桁の数から、その十の位と一の位の数の和を引くと９の倍数になるというものです。
２０台の数の場合、この計算をすると、必ず１８になります。
例）２７－（２＋７）＝１８
ただし、このまま演じるのは抵抗がありました。この原理は、以前は中学校数学の教科書に載っている内容だからです。
そこでいろいろ考えて、この原理を使いながらも、そうと気づきにくい演出を考えました。
「十の位と一の位の和」という言葉を使わないのがポイントです。